

## 思考回廊パネルの思い

我々、33回生のパネルは、「33回生」から連想した「燦燦」と輝く同級生の将来、附設の未来、というアイデアを元に、光り輝く青空の背景と、33回生を象徴するようなシンプルな影絵を組み合わせでデザインしました。つくしは「修羅道の世」でも、大地からすくすくと伸びていく、春の息吹。昨年、たまたま二十数年ぶりに開いた小さな同窓会の日には震災が起こりました。まだ事情もよくわからないまま、久留米の街で飲んだ仲間の中から今回のデザインチームが立ち上がりました。ですから、復興や希望といったイメージをどこかに織り込みたい、と考えたのです。また「筑紫」平野、にもかかっているし、懐かしい筑後川の河原にもつながるイメージです。久留米とか自然とかに思い入れがない同級生にとっては、細くても元気な、俺たち男子校生の○○○、との解釈も可能です。ランナーは、輝く未来に向かって走り続ける33回生の全員、です。「燦燦」の文字は、在校中大変お世話になった、古文の西原和美先生にお願いしました。西原先生から、「讚燦」もおもしろいのでは、との御提案がありましたので、そのように変更させていただきました。

同級生の共同作業、そして西原先生のお力添えでこの作品が出来上がった事が何よりの喜びです。

在校生の皆さん、日々の勉強に疲れたら、この青い絵に会いに来てください。輝く未来が君たちをきっと待っています。

(文責 石原光二郎)